

平成 22 年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

高等学校において一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導のあり方に関する研究
～高等学校における「かながわの支援教育」の具体的展開～

2 研究の概要

高等学校において、障害の有無にかかわらず、社会で必要な生活技能を学習するために学校設定科目「生活研究活動」を創設し、その設置に必要な内容について研究する。「生活研究活動」では、生徒相互が協働の中でストレスマネジメントやコミュニケーションスキルなどを学ぶことができる時間とする。この活動と生徒指導、学習相談、教育相談が有機的に展開するしくみづくりについても研究する。

また、支援が必要な生徒に対して必要な指導内容や、関係機関が連携して行う支援の内容に関して整理した「個別の将来計画」について、具体的な作成方法等を検討する。

これらの研究を通して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導のあり方を研究するとともに、生徒が生活する基本的な集団である学級が、すべての生徒にとって居心地のよいものとなるための諸条件について研究する。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

「生活研究活動」を設定することにより、現在提供している教育相談や生徒指導などの支援資源を効果的に活用し、生徒が主体的に、自らの生活設計に取り組める環境を整える。なお、生活技能の習得に困難のある生徒を含め、一般的な支援のレベルから密度の濃い支援までの連続体を校内に整備し、居心地のよい学習集団を形成する。また、高等学校在学中から関係機関との連携を前提とした「個別の将来計画」を作成し、卒業後の社会生活につながる指導や支援のあり方について明らかにする。

(2) 教育課程の特例

研究の3年目にあたる平成22年度については、1年次のすべての生徒を対象に「生活研究活動」（1単位）を設定し、その一部に特別支援学校の指導領域である「自立活動」を含める。

具体的には「自立活動」の6区分「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の中で、主に「健康の保持」「人間関係の形成」「コミュニケーション」の領域を「生活研究活動」の次の項目で展開していく。

○「よりよいコミュニケーションを目指して」「情報リテラシー」（人間関係の形成・コミュニケーション）

イメージ交換ゲームやアサーショントレーニングなどを授業で実践し、クラスを中心としたよりよい人間関係の形成を支援するだけでなく、携帯電話でのメール等による友人間のトラブルの未然防止を図る。

○「体と健康」（健康の保持）

睡眠時間調査を基にした「健康と睡眠」、「生活習慣・健康と食事の関係」等の授業を展開して、日常生活の健康管理について指導し、学校生活の安定を図る。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

社会に必要な生活技能を身につけ、生涯にわたって安全で快適な生活を送るための基本的な内容を学習する「生活研究活動」と特別支援学校の「自立活動」との内容の組み合わせに関する研究・検討を行う。

「生活研究活動」では、生徒を取り巻くさまざまな課題をテーマに設定し、体験的な内容や参加型の授業を展開するとともに、外部講師や外部資源の活用を図るなど、効果的な手法を工夫しながら、生徒支援の具体的なプログラムを実践する。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<ul style="list-style-type: none">・「生活研究活動」にかかわる検討 （現在の田奈高校における「総合的な学習の時間」における生活に関する学習内容と、特別支援学校の「自立活動」の内容の組み合わせに関する検討）・近隣の特別支援学校との教育相談ネットワークの形成・中学校との情報交換システムに関する検討・クラスづくりの視点を含めた校内ケース会議の実施・発達障害、情緒障害等についての研修の充実・サイコ・エデュケーション（心理学を応用した教育）に係る研究・研修の実施・「個別の将来計画」導入を視野に入れた検討を行い、（個々の生徒に対して、どのような支援内容を取り入れることが必要なかを明らかにする）ケース会議等により生徒の実態把握につとめ、一人ひとりの課題解決を図る中でシステム形成を図る・現在の田奈高校における生徒指導や教育相談のシステム等に関する検討・次年度の教育課程に「生活研究活動」を位置づけることについての検討・第1年次の研究成果のまとめ

第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活研究活動」における協働的な学習、個別の支援の在り方に関するケース会議を有効利用した手法による検討 ・「個別の将来計画」（ポートフォリオ形式）作成の試行 ・「生活研究活動」と生徒指導、学習相談、教育相談との関連に関する研究 ・中学校との連携システムの検討 ・第2年次の研究成果のまとめ
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活研究活動」のテキストと「個別の将来計画」（ポートフォリオ形式）の有機的な関係に関する詳細な検討 ・学校の支援体制の中における「生活研究活動」の位置づけに関する再検討 ・特別支援学校との連携に関する検討 ・研究発表会の開催 ・第3年次の研究成果のまとめ

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の支援教育の理解に関する検証 ・研究体制の整備についての検証 ・サイコ・エデュケーションの有効性の検証 ・多様なネットワークを基盤としたケース会議の有効性の検証 ・「生活研究活動」の内容の検証
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活研究活動」の果たす役割の検証 ・生徒指導・教育相談における「個別の将来計画」の有効性の検証
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活研究活動」と「個別の将来計画」との関連性の検証 ・カリキュラム全体における「生活研究活動」の中核的な位置づけの検証

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

ア 「生活研究活動」と「個別の将来計画」との関連性の検証と効果

【学校の概要】

本校は、平成21年度より県教育委員会から「クリエイティブスクール」の指定を受け、中学校までに持てる力を必ずしも十分に発揮しきれなかった生徒を積極的に受け入れ、本校における3年間のさまざまな教育活動を通して、これからの社会生活をよりよいものにする意欲と他者との関わりを大切にしながら、主体的に学び、考え、行動する「社会実践力」を育むことを目標としている。中学校までに持てる力を十分に発揮できなかった背景には、中学校以前の基礎的な学

習が十分に定着していない、基本的な生活習慣が身につけていないなどの顕在化している事象の背景に、家庭環境、経済状況及び生徒の心身の発達の状況などさまざまな要因があげられる。そのような状況を踏まえ、本校では、生徒の特性をとらえた教育実践を行うほか、生徒指導と教育相談の一体化による生徒支援、大学生等の学習支援ボランティア、専門家・研究者による学習相談、巡回相談などの外部資源を効果的に活用した学習支援、キャリア教育を中心とする進路支援など、生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援を可能にする充実した支援体制を構築している。

本校における支援は、まずは生徒の話を聞くことから始まる。そして、この「生徒との対話」の内容は、状況に応じて、関係する教職員の間で共有化され、さらに「コア・ミーティング」へと組み込んでいく。

「コア・ミーティング」は、教育相談コーディネーター4名（本県の総合教育センターで実施している「教育相談コーディネーター養成講座」の修了者。各学年に配置。）、養護教諭2名、スクールカウンセラー及び生徒支援グループリーダーにより構成され、スクールカウンセラー来校時（今年度は年間30回）に実施し、生徒一人ひとりの状況に応じた支援計画を立てていく。また、「コア・ミーティング」においては、学年所属の教育相談コーディネーターが当該学年の生徒の状況について報告し、情報の共有化を図る。事案によっては管理職が出席するなど、柔軟なメンバー構成によって運営することで、生徒の支援に大きな効果をもたらしている。なお、現在、本校における「教育相談コーディネーター養成講座」の修了者は、各学年に配置された4名のほか、養護教諭1名と生徒支援グループリーダーを含め、6名である。

「生活研究活動」の内容は、このような一連の支援を通して浮かび上がってきたさまざまな問題と密接なつながりをもって構成されている。支援体制の中で展開される支援が、個々の生徒の状況を踏まえた生徒一人ひとりに応じた個別の支援計画であるのに対し、「生活研究活動」で実践される学習は、大局的な視点に立った1年生全員を対象とする総合的かつ具体的な生徒支援プログラムとすることができる。

【生活研究活動】

「生活研究活動」で使用している自主作成教材（冊子）は、生徒を取り巻くさまざまな問題や危険、生徒の生活実態、身近な話題をテーマとし、次の内容で構成されている。

- ・ よりよいコミュニケーションを目指して
- ・ 情報リテラシー
- ・ 体と健康
- ・ 喫煙・飲酒・薬物
- ・ ネット時代の安全
- ・ 交通安全
- ・ 家庭生活

いずれのテーマも、正しい知識を習得、自ら考え、生活の中で適切な対応がとれるよう、「課題」を設定し、現在の自分の状況・状態を確かめるところから始め、グループワークやグループ討論、ビデオ視聴を取り入れたり、外部講師を招いたりするなど、生徒が自らの生活を振り返り、対象化（自己モニタリング）することにより、より実感的、効果的に学習できるよう授業展開を工夫している。

本校の生徒にとって、特に育成したい力がコミュニケーション能力である。コミュニケーション能力は、社会で必要とされる基本的な能力である。しかし、本校生徒の中には、他者とのコミュニケーションがうまくとれず、円滑な人間関係を構築できないことから、困難を抱える生徒が少なからずいる。そのような実情を踏まえ、クラスを中心とした、よりよい人間関係の形成を支援するため、イメージ交換ゲームやアサーショントレーニング等を授業に取り入れ、自然な流れの中で、よりよいコミュニケーションを取ることを体感させている。特に、アサーショントレーニングでは、自分の気持ちや考えを相手に伝える際に、アグレッシブ（攻撃的）でもノンアサーティブ（非主張的）でもない、自分のことも相手のことも大切にしたい伝え方があることを学び、大きな成果を得ることができた。それは、授業の中での生徒の発言や感想、授業後のアンケートやまとめ等に表れている。

「情報リテラシー」では、携帯電話の機能やマナー、メール依存症チェックなど、生徒の日常において不可欠なツールになっている携帯電話について、具体的な事例やクイズ形式を取り入れ、グループワーク的手法で授業を展開することにより、生徒の興味・関心を喚起しながら携帯電話のさまざまな問題についての理解を深め、便利なツールが無自覚のうちに重大な問題につながる可能性について実感させることができた。また、携帯電話やインターネットの掲示板のしくみを学び、本人が匿名で書き込みをしたつもりでも、ネット上では、生徒が考えているよりもはるかに容易に個人が特定できることを取り上げ、携帯電話のメール等による友人間のトラブルの未然防止を図るとともに、よりよいコミュニケーションツールの活用について考えさせる機会としている。

「体と健康」の項目では、健康とはどういうものか、また、将来、健康で豊かな人生を送るために、10代での生活を充実させることがいかに大切であるかを考え、自らの就寝時刻、起床時刻、睡眠時間を記入したり、睡眠と健康に関わる質問に○×で答えさせたりすることにより、生徒の興味・関心を喚起しながら、睡眠のメカニズムや睡眠と健康との関係を学習し、規則正しい生活がいかに健康にとって大切であるかを、生徒の実体験を通して認識させることができた。

【個別の将来計画】

本校では、「総合的な学習の時間」にキャリア教育の一環として実施している「進路研究」及び「生活研究活動」における自主作成教材は、自らの気づきや考え、感想など、生徒が書き込む部分を多く取り入れている。また、ポートフォリオ形式で生徒一人ひとりのさまざまな情報を保存することにより、自己理解と学習の定着・深まりを図っている。たとえば、「生活研究活動」における、睡眠・食生活に関わる「体と健康」の分野では、睡眠・食生活のメカニズムを知り、自らの生活を見直すことにより、遅刻や食生活を改善するよき機会となるなど、高校生活への適応やよりよい生活習慣の定着に成果を上げている。

ポートフォリオ形式で学習の足跡を残し、学校において一括管理する生徒の個別ファイルは、生徒一人ひとりのさまざまな場面での支援や進路選択の際の重要な資料となっている。特に、関係機関等との連携や卒業後の社会生活につながる指導・支援の在り方を視野に入れて作成する

「個別の将来計画」では、個別ファイルに残された情報を生かすことにより、生徒の状況をさまざまな視点からとらえ、充実した内容の「個別の将来計画」を作成することができる。たとえば、課題を持った生徒の進路指導では、個人ファイルを用いて、支援を必要とする生徒の特性や生活の様子、キャリアアンカーや職業に対する興味・関心、その生徒のもつ強みなどを理解した上で、

これまでの支援の在り方を踏まえ、今後さらにどのような関係機関との関わりが必要であるかを視野に入れた「個別の将来計画」を作成していく。

ポートフォリオ形式により、その時々を生徒の情報や考え・価値観を残しておくことは、生徒の特性を踏まえた多面的、複層的な「個別の将来計画」の作成を可能とし、さらなる個別支援の充実につながっていく。

イ カリキュラム全体における「生活研究活動」の中核的な位置の検証と効果

【「生活研究活動」の内容とカリキュラムにおける位置づけ】

「生活研究活動」では、生徒を取り巻く環境や生活実態に着目することにより、「情報リテラシー」、「体と健康」、「ネット時代の安全」などの単元を設け、自らを振り返るとともに、社会で必要な生活技能や社会への適応能力の育成を図っている。その多くは日常生活の中で、基本的、一般的な内容であり、本来であれば、これまでの成長の過程で培われてきているはずのものである。しかし、実際には、知らなかったり、身につけていなかったりしている生徒は意外と多い。その背景には、家庭環境や家庭力の低下、日常生活における経験の不足、学ぶ姿勢が身につけていないことなど、学ぶべきときに学んでこなかった、あるいは、自然に身につくべきものが身につけてこなかったさまざまな要因が考えられるが、それに加えて、生徒を取り巻く昨今の社会状況の変化の激しさもその一因となっている。

本校では、そのような状況を踏まえ、社会生活に必要な知識や技能を学習する「生活研究活動」を創設した。その学習内容は、生徒を取り巻く環境や生活実態に基盤を置くものであると同時に、教科横断的なものであり、扱う分野は多岐にわたっている。つまり、「生活研究活動」におけるそれぞれのテーマが、さまざまな教科との関連性を持ち、その関係性の中で相互に補完したり、さらに発展的な学習への深まりをもたらしたりするなど、カリキュラム全体における中核的な位置を担っていると言える。

言うまでもなく、カリキュラム上における教科活動だけで、生徒の抱えるさまざまな困難や課題に対応し、有効な支援を行っていくことには限界がある。「生活研究活動」は、いわば、生徒個々が抱える困難や課題や生徒を取り巻く社会に存在しているリスクを生徒自身が意識化させる契機と言える。「生活研究活動」は、生徒の自立と支援を視野に入れた身近なテーマを扱うことにより、その多岐性と教科との関連性において、カリキュラム全体の中で本校生徒の学びの原点として、さまざまな可能性を内包している。

【教育活動における効果と課題】

たとえば、「体と健康」の単元では、健康とは何かを学んだ上で、「睡眠」、「生活習慣・食生活」、「運動」を中心に学ぶことにより、日常生活における健康管理を促し、学校生活の安定に効果を上げている。「睡眠」、「生活習慣・食生活」、「運動」については他教科でも学ぶ機会があり、生徒の興味・関心、学習の深まりについても期待できる。

また、「家庭生活」の単元では、家事労働や育児をしながら働き続けるための法律、制度、社会保障について学ぶほか、いわゆる「デートDV」の被害やそれに類する被害を受けている生徒が一定数いることから、よりよいコミュニケーション能力の育成の一環として、平成20年度からNPO法人「エンパワーメントかながわ」の支援により、「デートDV」をテーマとして、各

クラスでNPO法人の方をファシリテーターとして、ワークショップ型の学習を展開している。ワークショップ型の学習は、生徒が主体的に取り組み、反応もよく、非常に効果的である。生徒は「デートDV」をより身近な問題として受け止め、その問題点や被害について実感するとともに、あらためて自他の人権やアサーティブなコミュニケーションなどについて考える契機となっている。

「生活研究活動」の中で身近な課題をとらえた学習を行うことにより、日常のさまざまな視点から生徒の問題意識が高まり、同様のテーマを他教科等で扱った場合、より発展的な内容、より大きな枠組みの中でのとらえ方につながっていく。

本校では、日常的な教育活動の中心に「支援」という視点を位置づけ、教科活動だけでなく教育相談、生徒指導、教科外活動等において「対話」を基盤とした生徒理解とそこから浮かび上がってきた生徒一人ひとりの困難や課題について継続的な支援を展開している。特に、教育相談コーディネーターを中心とする教育相談と生徒指導の一体化による緊密な連携、協働が生徒支援に大きな役割を果たしており、今後さらに「生活研究活動」の学習内容の研究を進めるとともに、本校の教育活動全体の中で、現在提供している教育相談や生徒支援などの支援資源を効果的に活用し、生徒が主体的に自らの生活設計に取り組めるよう、生徒の自立支援及び社会への適応につながる実践力の育成を旨としていきたい。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

高等学校における生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の在り方について、「かながわの支援教育」を具体的に展開する中で研究を始めて3年が経過した。その経過の中で、個別支援の組織づくりが進み、学年制を基盤として、教職員個々が「支援」というコンセプトで教育活動を展開するという認識が深まりつつある。

高校生活がスタートする1年次に「総合的な学習の時間」においてキャリア教育の一環として実施している「進路研究」（1単位）と併せて「生活研究活動」（1単位）を実施することで、高校生活を中心とした日常生活に対する意識や、自らの将来計画に対する意識の深まりを促進することができている。

また、対話中心の生徒指導の手法が、生徒との信頼関係の醸成や相談機能の充実に大きく寄与しており、実効性のある教育相談体制の運用につながっている。しかし、対話が中心であっても、生徒によっては、対話の内容を記録として残し、その後の支援に生かすことにより、一層の効果が望める場合もあるので、今後、記録方法等について研究を進めていく必要がある。

学習支援のしくみも、年間を通した、早期からの継続的で段階的な補習指導や、学習支援ボランティア等の外部資源を活用した個別指導を中心に充実の方向にあり、生徒にも「わかる楽しみ」を通して、学習への意欲が高まってきている。その一方で、放課後の補習指導や個別指導に多くの時間が割かれ、担当者の負担が増していることも事実である。今後は、補習指導や個別指導と併せて、生徒の実態や特性を踏まえた「支援」に着目した組織的な授業改善に取り組むことにより、授業展開の中でより多くの生徒に「わかる」という実感を抱かせ、生徒の自信や学習意欲、自己肯定感につなげ、「生活研究活動」との関連性を効果的に保ちながら、生徒の自立や社会実践力の育成を図っていく必要がある。

また、教育相談コーディネーターの中でも、特に教育相談体制の中核を担う担当者については、

広く支援の必要な生徒をとらえられるよう、担任を持たないフリーな立場であることが望ましいが、それを可能とする人的余裕がないのが実態である。今後、さらに生徒一人ひとりに対応した支援機能の拡充を図っていくためには、業務の省力化や、事業の選択と集中など、限られた人的資源の中での工夫とともに、外部資源を含めた人的措置が喫緊の課題である。

今年度は、在校生のキャリア教育の統括、進路指導・支援等を担うとともに、卒業生や中途退学者のキャリア支援を視野に入れた「田奈高校キャリア支援センター」を設置した。

このセンター設置の背景には、直接的には、高卒求人状況の悪化による就職率の低下、家庭の経済的問題から派生している進学への困難等、卒業生を取り巻く進路状況の厳しさが存在する。生徒自身が社会の中で自立し、生活を営んでいくことができるスキルを育てることが究極の「支援」といえるが、3年間の学校生活でそれを完結させることには大きな困難が横たわっている。

国段階でも、平成21年に「子ども・若者育成支援推進法」が成立し、平成22年4月1日に施行された。また、平成22年7月には内閣府から「社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者への総合的な支援を社会全体で重層的に実施するために」という提言が、「子ども・若者支援地域協議会運営方策に関する検討会議」より出され、若者の自立に向けた総合的な支援方策が模索されている。

今後、このセンターを中心に、本校におけるキャリア教育全体を俯瞰しながら、卒業後も視野に入れた生徒のキャリア発達や自立への支援、社会につながる実践力の育成を図っていく。そのためには、このキャリア支援センターの機能をより明確にし、校内体制を構築するとともに、外部とのネットワークを構築し、外部との連携体制を確立する中でその資源をいかに導入していくかが重要な鍵となる。

本校における生徒支援は、まず「生徒との対話」から始まる。そして、その対話に端を発する教育的ニーズが教員相互の対話の動機や情報の共有化の契機となり、それがさらにコア・ミーティングやケース会議などの組織的な支援に発展していく。そのような「生徒との対話」を起点とする、本校の独自の教育相談体制を基盤とする生徒支援、キャリア教育を中心とする進路支援、生徒のニーズに応じた補習などを有機的に展開する学習支援の3つが本校の支援体制の軸となり、密接に関連しながら、生徒一人ひとりのニーズに対応した支援を展開している。そのような展開の中で、「生活研究活動」及び「進路研究」の実践の中で蓄積されたポートフォリオは、まだまだ活用の余地を残している。さまざまな場面から浮かび上がってくる生徒の課題をとらえ、これまでに培ってきた迅速で機能的な本校の支援体制を生かすとともに、「生活研究活動」及び「進路研究」の実践の中で蓄積された生徒一人ひとりのポートフォリオを活用し、より実効性のある在学時の支援及び卒業後の社会生活や関係機関等との連携を視野に入れた「個別の将来計画」の作成など、より多面的、複層的な支援の可能性を追求したい。

今後は、組織の再編やキャリア教育のさらなる充実などを視野に入れ、生徒に関わるあらゆるツールを活用し、大局的な視点と個に対する視点との両面から、校内におけるそれぞれの組織的な領域を超えた、協働的で総合的な支援の展開に向けて、一層の強化を図っていく。

神奈川県立田奈高等学校 教育課程表

入学年度			平成22年度				平成21年度				平成20年度				
学 年			1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
教科	科 目	学級数 標準単位数	8	8	8		8	8	8		8	8	8		7
国語	国語表現Ⅰ	2		0~2	0~2	0~4		0~2	0~2	0~4	0~2	0~2	0~2	0~4	
	国語総合	4	4	2	0~2	6~8	4	2	0~2	6~8	4	2	0~2	6~8	
	現代文	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4	
	古典講読	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	国語研究*			2	2			2	2			2	2		
地理 歴史	世界史A	2													
	世界史B	4		3		3		3				3	3		
	日本史A	2			2	2			2	2					
	日本史B	4			0~4	0~4			0~4	0~4		3	0~3	3~6	
	地理A	2													
	地理B	4			0~4	0~4			0~4	0~4			0~3	0~3	
	近現代史*				0~4	0~4			0~4	0~4			0~3	0~3	
	日本近現代史*												0~3	0~3	
	地域を歩く〜アド街ツッ田奈*			0~1		0~1		0~1		0~1	0~1			0~1	
	地域研究*				0~1	0~1			0~1	0~1		0~1		0~1	
公民	現代社会	2	3			3	3			3	3			3	
	倫理	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	政治・経済	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	現代を歩く〜政経編*												0~1	0~1	
数学	数学基礎	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	
	数学Ⅱ	4		3	0~2	3~5		3	0~2	3~5		3	0~2	3~5	
	数学Ⅲ	3			0~4	0~4			0~4	0~4			0~4	0~4	
	数学A	2		0~2	0~2	0~2		0~2	0~2	0~2	0~2	0~2	0~2	0~2	
	数学B	2		0~2	0~2	0~2		0~2	0~2	0~2		0~2	0~2	0~2	
	数学C	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	基礎計算数学A*										0~1			0~1	
	基礎計算数学B*										0~1			0~1	
	基礎計算数学C*				0~1	0~1			0~1	0~1			0~1	0~1	
基礎計算数学D*				0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2		
理科	理科基礎	2							2	2			2	2	
	理科総合A	2									0~2		0~2		
	理科総合B	2			2	2					0~2		0~2		
	物理Ⅰ	3		3	0~2	0~3		3	0~2	0~3		2	0~2	0~2	
	物理Ⅱ	3			0~4	0~4			0~4	0~4			0~4	0~4	
	化学Ⅰ	3	3	0~2	0~2	3~5	3	0~2	0~2	3~5	3	0~2		3~5	
	化学Ⅱ	3			0~4	0~4			0~4	0~4			0~4	0~4	
	生物Ⅰ	3		3	0~2	0~3		3	0~2	0~3		2	0~2	0~2	
	生物Ⅱ	3			0~4	0~4			0~4	0~4			0~4	0~4	
	地学Ⅰ	3			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
保健 体育	体育	7~8	3	2	3	8	3	2	3	8	3	2	3~5	8~10	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	
	音楽Ⅱ	2		2		0~2		2		0~2		2		0~2	
	音楽Ⅲ	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	美術Ⅰ	2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	
	美術Ⅱ	2		2		0~2		2		0~2		2		0~2	
	美術Ⅲ	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	書道Ⅰ	2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	2		0~2	0~2	
	書道Ⅱ	2		2		0~2		2		0~2		2		0~2	
	書道Ⅲ	2			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	生活美術*			0~2		0~2		0~2		0~2		0~2		0~2	
篆刻*			0~2		0~2		0~2		0~2		0~2		0~2		
外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2									3			3	
	英語Ⅰ	3	3			3	3			3		3		3	
	英語Ⅱ	4		3		3		3		3		3		3	
	ライティング	4			3	3			3	3				3	
	発展英語A*			0~2		0~2		0~2		0~2	0~2			0~2	
	発展英語B*				0~2	0~2			0~2	0~2		0~2		0~2	
	英語総合*				0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
発展英語C*												0~2	0~2		
家庭 情報	家庭総合	4	2	2	0~2	4~6	2	2	0~2	4~6	2	2	0~2	4~6	
	情報A	2	1	1		2	1	1		2		2		2	
	文書処理基礎*			0~1	0~1	0~1		0~1	0~1	0~1		0~1	0~1	0~1	
専門家庭	服飾手芸	2~4		0~2		0~2		0~2		0~2		0~2		0~2	
専門情報	情報実習	2~8			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
	情報と表現	2~4			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
専門体育	スポーツⅡ	2~12			0~2	0~2			0~2	0~2			0~2	0~2	
総合的な学習の時間			3~6	1	1		2	2	1		3	2	1		3
生活研究活動*				1			1								
計				27	25~28	22~28	74~83	27	25~28	22~28	74~83	26~29	25~29	19~29	74~87
ホームルーム活動				1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
総計				28	26~29	23~29	77~86	28	26~29	23~29	77~86	27~30	26~30	20~30	77~90

※備考 科目名のうち、斜体は 学校設定科目 を表す。また、「生活研究活動」は国の教育研究開発該当科目である。